

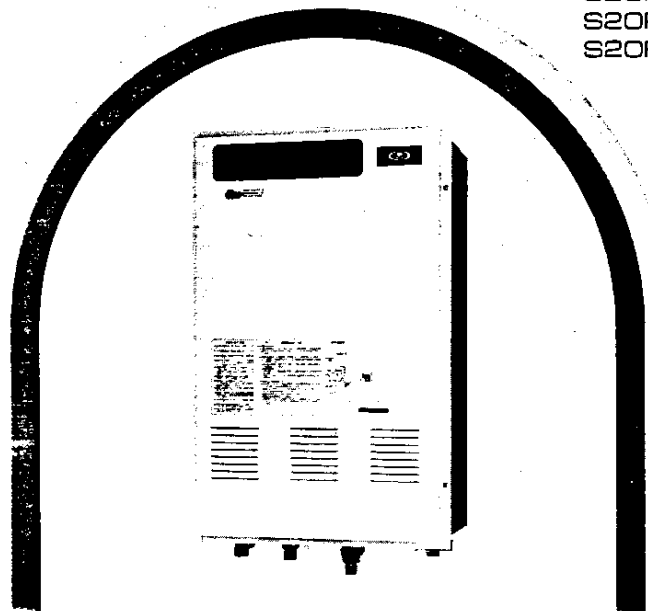


ガス瞬間湯沸器

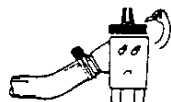
取扱説明書 33-695・696型
33-697・698・699型

保証書付

型式名 S20R2型
S20R2型G
S20R2型E
S20R2型M



ガス器具をご使用になるときのご注意



ガス器具を
ご使用になった
あとは必ず
ガス元せんも
閉める習慣を



ガス器具を
ご使用中は
熱くなります
手をふれないで
ください！



ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

- ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく操作してください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にお問い合わせください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガス瞬間湯沸器をお
買い求めいただき、ありがとうございました。
別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を
大切に保存してください。

もくじ

●各部の名称	2
●特に注意していただきたいこと	5
●湯沸器の設置・工事	8
●使用手順	8
●断水時・停電時の処置	20
●給湯配管内の空気抜きのみかた	21
●冬の凍結による破損予防について	22
●日常の点検・手入れ	24
●長期間使用しない場合	26
●故障・異常の見分け方と処置方法	27
●アフターサービス	31
●仕様一覧表	33
●外形寸法図	34
●別売部品のご紹介	36
●特長	37
●本製品と快適な暮らしのために	38

各部の名称③〈別売部品〉

④シャワーコントローラ(サイクルシャワータイプ)

●このシャワーコントローラには、下記のスイッチ(ボタン)やランプがありますので、その名称と働きをごらんになって正しく操作してください。

(湯温調節) スwitch (ダウンボタン)

●このボタンを押して、湯温調節ランプを左に移動させると、湯温をゆるくできます。

(燃焼) ランプ

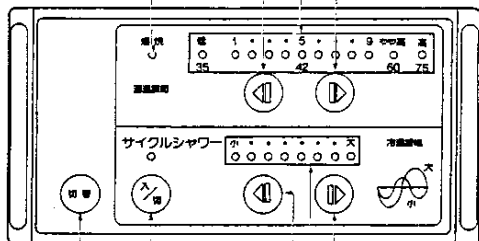
●このランプの点灯中は、バーナが燃焼中であることを示しています。

(湯温調節) ランプ

●このランプの点灯中に、給湯を閉くと、シャワーコントローラでの設定湯温のお湯になりますので、このランプの点灯位置によって、湯温設定のめやすとしてください。

(湯温調節) スwitch (アップボタン)

●このボタンを押して、湯温調節ランプを右に移動させると、湯温をあつてできます。



(切替) スwitch

●このスswitchを押して、シャワーコントローラの湯温調節ランプを点灯させると、浴室内で湯温調節できます。

(サイクルシャワー) 調節スswitch (ダウンボタン)

●このボタンを押して、サイクルシャワーランプを左に移動させると、サイクルシャワーの冷温振幅を小さくできます。

(サイクルシャワー) スwitch

●このスswitchを押して、サイクルシャワーランプを点灯させると、シャワーの給湯性を閉くだけで、サイクルシャワーとなります。

(サイクルシャワー) 調節スswitch (アップボタン)

●このボタンを押して、サイクルシャワーランプを右に移動させると、サイクルシャワーの冷温振幅を大きくできます。

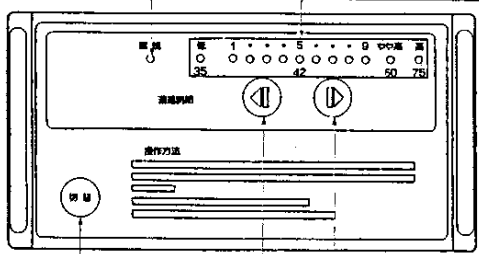
(サイクルシャワー) ランプ

●このランプの点灯中に、給湯性を閉くと、サイクルシャワーとなります。

⑤シャワーコントローラ(標準タイプ)

(燃焼) ランプ

(湯温調節) ランプ



(切替) スwitch

(湯温調節) スwitch (ダウンボタン)

(湯温調節) スwitch (アップボタン)

特に注意していただきたいこと

正しく安全にご使用いただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガス・使用電源についてのご注意

- ①湯沸器本体(銘板)に表示しているガスの種類・ガスグループおよび電源(電圧・周波数)以外では、使用しないでください。
- ②銘板は湯沸器本体の正面右下に貼ってあります。
- ③ガスの種類には都市ガスとLPGガスとがあり、さらに都市ガスにはガスグループの区分があります。お宅のガスと一致していることをご確認ください。
- ④この湯沸器の電源電圧は〔AC100V〕電源周波数は〔60Hz〕です。お宅の電圧および周波数と一致していることをご確認ください。

(銘板)

(ガスの種類)

メーカー型式名	<ul style="list-style-type: none"> ・都市ガス用 6C ・都市ガス用 13A ・都市ガス用 6A ・LPGガス用
ガスの種類およびガスグループ	
ガス消費量	
定格電圧	(定格電圧)
定格消費電力	AC100V
定格周波数	
製造年月および製造番号	(定格周波数)
製造業者名	60Hz

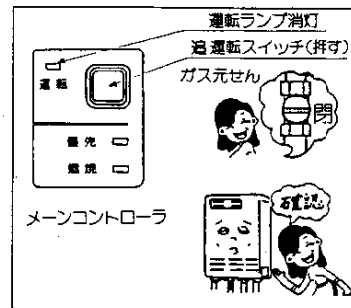
使用上のご注意

①ガス漏れ予防

●お出かけや、おやすみになるときは、湯沸器のガス元を必ず閉じて、メインコントローラの〔運転〕スswitchを押し、「切」にして〔運転〕ランプが消灯していることをご確認ください。

(※〔保温運転〕をするときは、この操作はしないでください。)

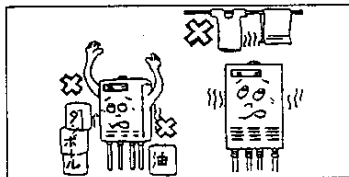
●湯沸器をご使用中に、ガスのおいや、不快なおいがないことを、ときときご確認ください。



特に注意していただきたいこと ②

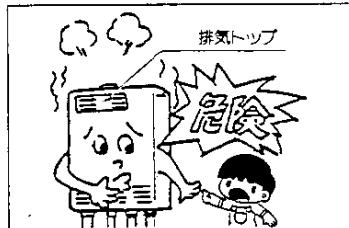
②火災予防

- 洗たく物・ダンボール箱・揮発油などの燃えやすいものを、湯沸器の上やそばに置いたり、近づけたりは、絶対にしないでください。



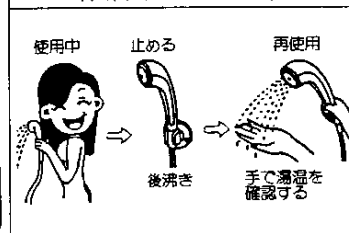
③やけどのご注意

- 湯沸器をご使用中または使用後しばらくは、湯沸器本体（特に排気トップ）が熱くなりますので、絶対に手を触れないでください。
（※小さなお子様のいらっしゃるご家庭では、特にご注意ください。）



- 給湯使用后、すぐにシャワーをご使用のときは、いきなりからだや頭にかけないで、手で湯温を確認してご使用ください。

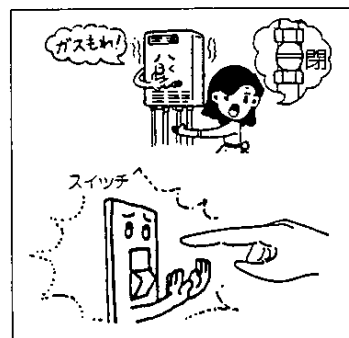
- （※湯沸器の後沸きにより、一瞬熱いお湯が出ることがありますので、十分にご注意ください。）



④ガス事故防止

- 湯沸器のガス漏れに気付いたときは、ただちにご使用を中止して、ガス元栓を閉じ、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス売店にご相談ください。

- 湯沸器のガス配管からガスが漏れたときは、火を付けたり、他の電気器具のスイッチの「入」、「切」や電源プラグの抜き差しなどは、絶対にしないでください。



特に注意していただきたいこと ③

⑤用途についてのご注意

- この湯沸器は、給湯およびシャワー以外の用途には、使用しないでください。

⑥市販の補助用具の使用についてのご注意

- この湯沸器には、専用の付属部品および別売部品を準備していますので、それ以外の適合が確認されていない市販の補助用具などは、絶対に使用しないでください。

⑦凍結についてのご注意

- ①この湯沸器には、冬期の凍結による破損予防のために、（凍結予防ヒータ）が内蔵されています。（凍結予防ヒータ）が必要な期間中には、給湯配管内の水を抜くときや緊急のとき以外は、絶対に電源プラグを抜かないでください。
- ②外気温度が極端に低くなるときには、この（凍結予防ヒータ）も効果がありませんので、湯沸器内の水が凍結して、破損事故が起こることがあります。このように、湯沸器内の水が凍るおそれのあるときは、凍結を予防する処置を必ず行ってください。

- （※詳しくは、22～24ページの「冬期の凍結による破損予防について」の項をごらんください。）

⑧飲料用や調理用にご使用のときのご注意

- 湯沸器を長時間使用しなかったときは、すぐに飲料用や調理用に使用しないで、少し水（湯）を流してからご使用ください。

⑨異常時の処置についてのご注意

- 湯沸器がご使用中にふだんと違った状態になったときや、故障・異常が生じたときは、あわてないで、給湯栓を閉じたあとに、（運転）スイッチを「切」にして、ガス元栓を閉じ、十分な点検をしてください。

- （※詳しくは、27～30ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項をごらんください。）

⑩落雷のおそれあるときのご注意

- 落雷による一時的な過電流で、電子部品が故障することがありますので、電が発生しているときは、ご使用を中止して、すぐに電源プラグを抜いてください。

- ②その後、雷が遠ざかったことを確認してから、電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。

⑪日常の点検・手入れ

- ①この湯沸器を安全に、快適に、ご使用いただくために、日常の点検・手入れをしてください。

- （※詳しくは、24～26ページの「日常の点検・手入れ」の項をごらんください。）

- ②この湯沸器が故障・異常が生じたときは、ただちにご使用を中止して、27～30ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項にしたがって、十分な点検と正しい処置をしてください。

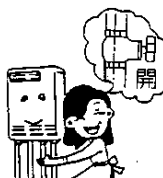

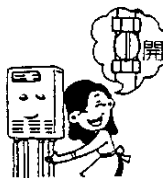
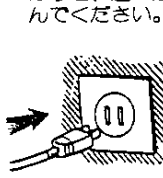
湯沸器の設置・工事

- ①この湯沸器の設置・工事は、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に依頼し、安全な位置に、正しく行ってください。
 (*詳しくは、「設置・工事説明書」を(33-697・698・699型の場合は、「設置説明書」も合わせて)ごらんください。)
- ②この湯沸器は、屋外設置形ですので、屋内には絶対に設置しないでください。

使用手順

ご使用前の準備と確認

●この湯沸器をご使用前に、次の手順にしたがって準備と確認を行ってください。

手順 1	手順 2	手順 3	手順 4
<p>●給水元栓を全開にしてください。</p> 	<p>●給湯栓を開いて水が出ることを確認して、給湯栓を閉じてください。</p> 	<p>●ガス元栓を全開にしてください。</p> 	<p>●電源プラグをコンセントにしっかりと、差し込んでください。</p> 

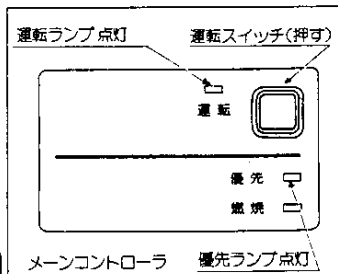
手順 5

●メインコントローラの(運転)スイッチを押して、「入」にしてください。

(*メインコントローラの(運転)ランプ・(優先)ランプ・(湯温調節)ランプ、および(時計)ランプが点灯します。)

(*メインコントローラの(時刻表示)が点滅しますので、17ページの「現在時刻の合せ方」の項にしたがって操作してください。

(*ランプが点灯しないときは、停電または配電盤の遮断器が、「切」になっていないかをご確認ください。



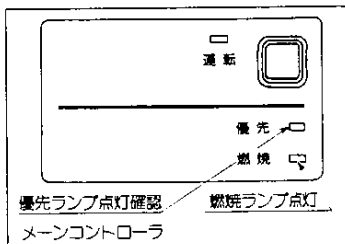
使用手順②

メインコントローラの使い方

点火・出湯 (お湯の出し方)

①メインコントローラの(優先)ランプが点灯していることを、ご確認ください。

(*メインコントローラの(優先)ランプが消灯しているときは、メインコントローラでの湯温調節はできませんので、シャワーコントローラの(切替)スイッチを押して、浴室外操作に切り替えてください。



②給湯栓を開くと、自動的に点火して、お湯が出てきます。

(* (燃焼) ランプが点灯します。

③メインコントローラの(湯温調節)ランプの点灯位置の設定湯温になります。

(*詳しくは、10ページの「湯温調節のしかた(メインコントローラ)」の項をごらんください。

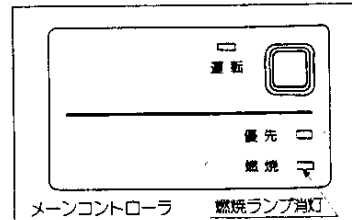
〈ご注意〉

- ①給湯栓を絞るすぎると、点火しなかつたり、消火することがあります。
- ②湯温調節を高温設定にしたときには、水中に含まれた空気が分離して気泡となり、お湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配ありません。

消火・出湯停止 (お湯の止め方)

●給湯栓を閉じると、自動的に消火し、お湯が止まります。

(* (燃焼) ランプが消灯します。



使用手順③

ご使用後の処置

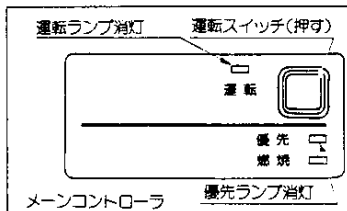
- ①メインコントローラの〔運転〕スイッチを押して、「切」にしてください。

※すべてのランプが消灯します。

〔※時刻表示盤の〔現在時刻〕表示は、消えないで残ります。〕

- ②長時間、使用しないときは、ガス元栓を閉じてください。

※保温運転をするときはこの操作はしないでください。



湯温調節のしかた (メインコントローラ)

- ①メインコントローラの〔優先〕ランプが点灯していることをご確認ください。
- ②メインコントローラの〔湯温調節〕スイッチ (アップボタンまたはダウンボタン) により、約35~75℃の間で (12段階) の湯温が選べます。
- ③〔湯温調節〕スイッチを押して、〔湯温調節〕ランプの点灯位置を移動させて、お好みの設定湯温にセットしてください。
- ④〔湯温調節〕ランプの点灯位置を、〔5〕にすると、(約42℃)のお湯になります。

湯温調節のしかた (メインコントローラ)

湯温調節スイッチ (ダウンボタン) 湯温調節スイッチ (アップボタン)

〈お湯をぬるくしたいとき〉

- ダウンボタンを1度押すごとに、ひとつずつ左の湯温設定になります。

〈お湯をあつくしたいとき〉

- アップボタンを1度押すごとに、ひとつずつ右の湯温設定になります。

使用手順④

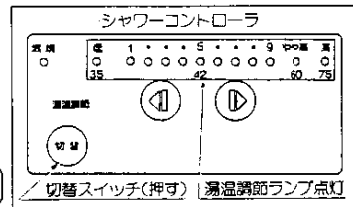
〔ご注意〕

- ①通常は、自動的にガス量を調節して設定湯温に合せますが、ガス量を最大にしても設定湯温にならないときは、ガス量は最大のままで自動的に水量を少なくして、合せます。
- ②また、湯水混合栓をご利用になりますと、〔湯温調節〕ランプの点灯位置を、〔60〕 (約60℃の湯温設定) にしたままで、水と混ぜてお好みの湯温にすることもできます。
- 〔※サーモミキシングをご利用の場合や、夏期に多量のお湯が必要なご家庭〕におすすめます。
- ③〔湯温調節〕ランプの点灯位置を〔75〕 (約75℃の湯温設定) にすると、お風呂の浴そうへの差し湯にご利用できます。しかし、このときは差し湯が終わる少し前に、〔湯温調節〕ランプの点灯位置を〔5〕付近の位置に戻してください。
- 〔※この操作を忘れずと、他の給湯栓を開いたときに給湯配管内に残った〕熱いお湯 (約75℃) が、そのまま出てきますのでご注意ください。

シャワーコントローラ (別売部品) の使い方

浴室内操作への切替

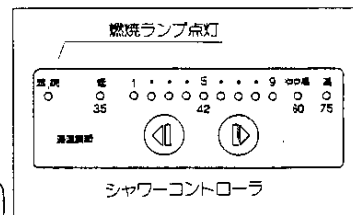
- シャワーコントローラの〔切替〕スイッチを押して、〔湯温調節〕ランプを点灯させてください。シャワーコントローラで湯温設定した、〔湯温調節〕ランプの点灯位置になります。
- 〔※メインコントローラの〔優先〕ランプが消灯します。〕



点火・出湯 (お湯の出し方)

- ①給湯栓を開くと、自動的に点火して、お湯が出てきます。
- ※〔燃焼〕ランプが点灯します。
- ②シャワーコントローラの〔湯温調節〕ランプの点灯位置の設定湯温になります。

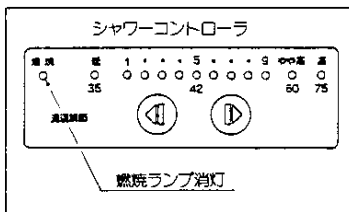
〔※詳しくは、12ページの「湯温調節のしかた (シャワーコントローラ)」の項をごらんください。〕



消火・出湯停止（お湯の止め方）

- 給湯栓を閉じると、自動的に消火し、お湯が止まります。

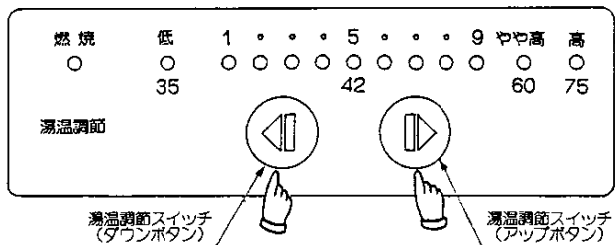
※（燃焼）ランプが消灯します。



湯温調節のしかた（シャワーコントローラ）

- シャワーコントローラの（湯温調節）ランプが点灯していることをご確認ください。
- シャワーコントローラの（湯温調節）スイッチ（アップボタンまたはダウンボタン）により、約35～75℃の間で（12段階）の湯温が選べます。
- （湯温調節）スイッチを押して、（湯温調節）ランプの点灯位置を移動させて、お好みの設定湯温にセットしてください。
- （湯温調節）ランプの点灯位置を、〔5〕にすると、〔約42℃〕のお湯になります。

湯温調節のしかた（シャワーコントローラ）



〈お湯をぬるくしたいとき〉

- ダウンボタンを1度押すごとに、ひとつずつ左の湯温設定になります。

〈お湯をあつくしたいとき〉

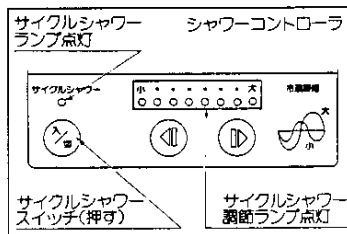
- アップボタンを1度押すごとに、ひとつずつ右の湯温設定になります。

サイクルシャワーの使い方（サイクルシャワータイプのみ）

- 8ページの「ご使用前の準備と確認」の項にしたがって、操作してください。
- 11ページの「浴室内操作への切替」の項にしたがって、操作してください。

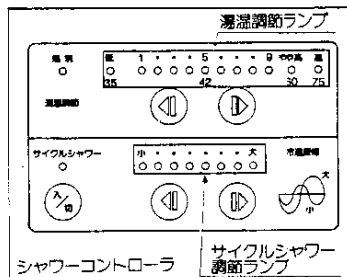
- シャワーコントローラの（サイクルシャワー）スイッチを押して、（サイクルシャワー）ランプを点灯させてください。

※（サイクルシャワー）調節ランプも同時に点灯します。



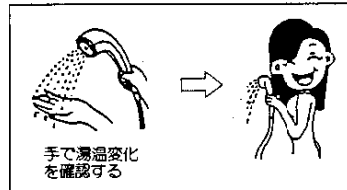
- シャワーの給湯栓を開くと、シャワーコントローラの（湯温調節）ランプと（サイクルシャワー）調節ランプの点灯位置に応じた（ぬるいお湯）と（あついお湯）が交互に出てきます。

※このときには、メインコントローラの（湯温調節）ランプの点灯位置が、止まることなく移動を続けて、（サイクルシャワー）をご使用中であることを、浴室外の方のお知らせします。



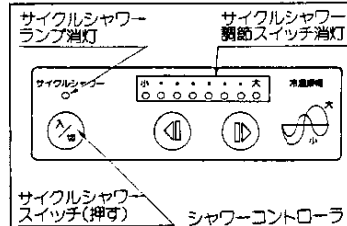
- 湯温変化の程度を手で確認してから、からだ全身にかけて、お楽しみください。

※詳しくは、14ページの「サイクルシャワーの湯温設定のしかた」の項をごらんください。



- サイクルシャワーをご使用後は、必ず（サイクルシャワー）スイッチを押して、サイクルシャワーランプを消灯させてください。

※通常の湯温設定に戻ります。



サイクルシャワースイッチ(押す) シャワーコントローラ

使用手順⑦

サイクルシャワーの湯温設定のしかた

①サイクルシャワー・平均湯温の設定のしかた

①シャワーコントローラの〔湯温調節〕スイッチ（アップボタンまたはダウンボタン）により、約33～41℃の間で〔9段階〕の（サイクルシャワー）平均湯温が選べます。その他は通常の湯温設定の場合と同様です。

②シャワーコントローラの〔湯温調節〕スイッチを押して、（湯温調節）ランプの点灯位置を移動させて、お好みのシャワー平均湯温にセットしてください。

〔※（湯温調節）ランプの点灯位置を、〔5〕にすると、（約37℃）のシャワー平均湯温になります。〕

②サイクルシャワーの冷温振幅の設定のしかた

①シャワーコントローラの（サイクルシャワー）ランプが点灯していることをご確認ください。

〔※（サイクルシャワー）ランプが消灯しているときは、（サイクルシャワー）スイッチを押して、ランプを点灯させてください。〕

〔※シャワーコントローラの（サイクルシャワー）調節スイッチ（アップボタンまたはダウンボタン）により、お好みの〔8段階〕のサイクルシャワーの（冷温振幅）が選べます。〕

②（サイクルシャワー）調節スイッチを押して、（サイクルシャワー）ランプの点灯位置を移動させて、お好みのサイクルシャワーの（冷温振幅）に設定してください。

サイクルシャワーランプ (冷温振幅の設定のしかた) サイクルシャワー調節ランプ

サイクルシャワー

○

小 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 大

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

入切

○

サイクルシャワースイッチ

◀

○

サイクルシャワー調節スイッチ (ダウンボタン)

▶

○

サイクルシャワー調節スイッチ (アップボタン)

〔冷温振幅を小さくしたいとき〕

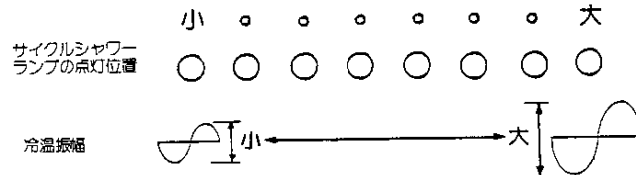
- ダウンボタンを1度押すごとに、ひとつずつ左の冷温振幅設定になります。

〔冷温振幅を大きくしたいとき〕

- アップボタンを1度押すごとに、ひとつずつ右の冷温振幅設定になります。

使用手順⑧

〔サイクルシャワー調節ランプの点灯位置と冷温振幅設定のめやす〕



〔ご注意〕

- ①サイクルシャワーの〔冷温振幅〕を大きくし過ぎると、熱いお湯になり過ぎたり、からだに刺激が強過ぎたりしますので、特におとしよりや小さなお子様のいらっしゃるご家庭では、ご注意ください。
- ②高血圧症・心臓病・動脈硬化症の人はご使用になれません。

保温運転(即時給湯の準備)のしかた(メインコントローラ)

①手動操作での保温運転のしかた

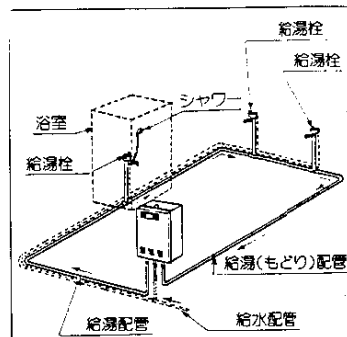
①8ページの「ご使用前の準備と確認」の項にしたがって、操作してください。

②メインコントローラの（優先）ランプが点灯していることをご確認ください。

③メインコントローラの（湯温調節）スイッチ（アップボタンまたはダウンボタン）を押して、（湯温調節）ランプの位置を移動させて、お好みの設定湯温にセットしてください。

●通常の湯温設定と同じですが、やけどの予防のために（75）（75℃の湯温設定）では使用できないようにしてあります。

〔※（75）（75℃の湯温設定）で（保温運転）すると自動的に（60）（60℃の湯温設定）に切り替わります。〕



保温運転にしておくと、給湯配管内のお湯をポンプ循環させて保温します。

使用手順⑨

①〔保温運転〕スイッチを押すと、〔保温運転〕ランプが点灯して、ポンプが作動した後、自動的に点火して〔保温運転〕を開始します。

※〔燃焼〕ランプが点灯します。

〔※〔保温運転〕後しばらく（約15分）すると、給湯配管内のお湯が設定した湯温〕になります。

※給湯配管の長さによって、湯温が安定する時間は多少異なります。

⑤その後、給湯配管内のお湯の温度に応じて、バーナの〔点火〕〔消火〕を繰り返し、設定湯温に合せます。

※〔燃焼〕ランプが点灯・消灯を繰り返します。

⑥〔保温運転〕が不要となり終了させたいときは、〔保温運転〕スイッチを2度押ししてください。

※〔保温運転〕が停止して、〔保温運転〕ランプ（〔タイマー〕ランプ）が消灯します。

〔※〔保温運転〕中に給湯栓を開くと、いったん〔保温運転〕が停止して、通常給湯に切り替わります。また、給湯栓を閉じてから約7分間を経過すると〔保温運転〕を開始します。〕

②タイマーセットによる自動保温運転のしかた

①まず、メインコントローラの時刻表示盤の、〔現在時刻表示〕をご確認ください。時刻が合っていないときは、必ず〔時刻合せ〕をしてください。

〔※詳しくは、17ページの「現在時刻の合せ方（メインコントローラ）」の項をごらんください。〕

②メインコントローラの〔切替〕ボタンを押して、〔タイマー合せ〕ランプを点灯させてください。

③メインコントローラの〔セット〕ボタンを押して、〔自動保温運転〕の設定した開始時刻および終了時刻をご確認ください。〔自動保温運転〕の開始時刻および終了時刻を変更したいとき、または設定していないときは、メインコントローラ下部の操作ボタン（4個）を使って、設定してください。

〔※操作ボタン（4個）とは、〔切替〕ボタン・〔時〕ボタン・〔分〕ボタンおよび〔セット〕ボタンのことです。〕

〔詳しくは、18ページの「自動保温運転のタイマーセットのしかた（メインコントローラ）」の項をごらんください。〕

④タイマーセットをご確認の上、メインコントローラの〔切替〕ボタンを2度押しして、〔時計〕ランプを点灯させてください。

⑤次に、メインコントローラの〔保温運転〕スイッチを2度押ししてください。

※〔タイマー〕ランプが点灯して、〔自動保温運転〕のセットは完了します。

⑥タイマーセットした時間帯だけ、〔自動保温運転〕を行います。

使用手順⑩

現在時刻の合せ方（メインコントローラ）

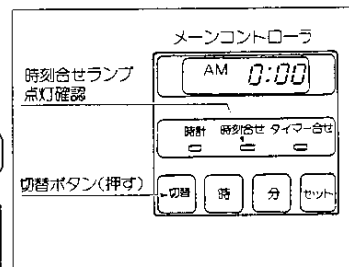
①メインコントローラの〔運転〕ランプ・〔優先〕ランプおよび〔湯温調節〕ランプが点灯していることをご確認ください。

※初めて電源を入れたときは、〔時刻表示〕が〔AM0:00〕と点滅します。

②メインコントローラの〔切替〕ボタンを押して、〔時刻合せ〕ランプを点灯させてください。

〔※時刻表示が点滅から点灯に切り替わります。〕

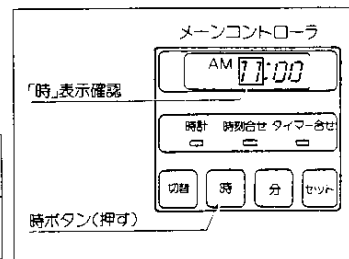
〔AM0:00〕は、午前0時、
〔PM0:00〕は、正午のことです。



③「時」合せ

〔時〕ボタンを1度押すごとに1時間ずつ進みます。〔時〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

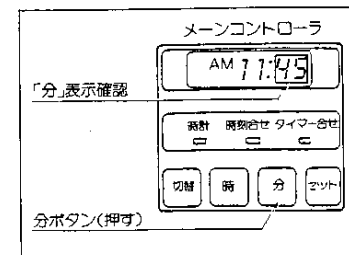
●現在時刻を〔AM11:45〕にセットする場合
〔AM11:00〕に「時」合せします。



④「分」合せ

〔分〕ボタンを1度押すごとに1分間ずつ進みます。〔分〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

●現在時刻を〔AM11:45〕にセットする場合
〔AM11:45〕に「分」合せします。



⑤〔切替〕スイッチを押して、〔時計〕ランプを点灯させると、時刻表示盤に〔現在時刻〕がセットされ、〔現在時刻合せ〕は完了です。

使用手順 ⑪

自動保温運転のタイマーセットのしかた(メインコントローラ)

- 自動保温運転のタイマーセットは、1日3回(予約1~3)までできます。

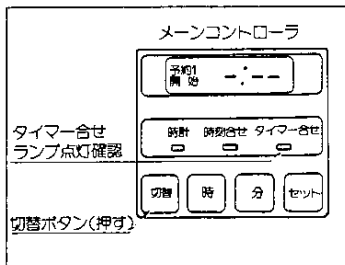
①自動保温運転のタイマーセットの準備

- ①メインコントローラの〔運転〕ランプ・〔優先〕ランプ・〔湯温調節〕ランプおよび〔時計〕ランプが点灯していることを確認してください。

- ②メインコントローラの〔切替〕ボタンを押して、〔タイマー合せ〕ランプを点灯させてください。

(※初めて電源を入れたときには、表示が〔予約1〕〔開始〕が現われ、時刻表示は、(--:--)と表示されます。

(※タイマーセット中、〔開始〕および〔終了〕の表示は、点滅します。



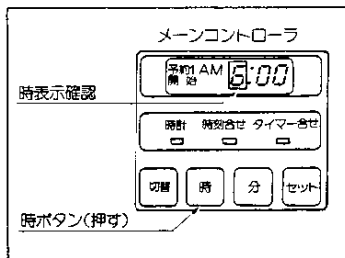
②自動保温運転の〔開始時刻〕設定のしかた(予約1)

- ①〔開始時刻〕の「時」合せ

〔時〕ボタンを1度押すごとに1時間ずつ進みます。〔時〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

- 開始時刻を〔AM6:30〕にセットする場合

〔AM6:00〕に「時」合せします。

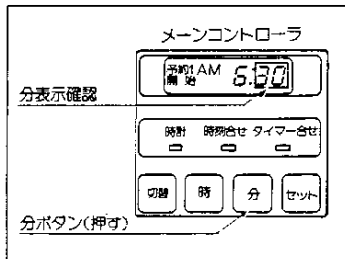


- ②〔開始時刻〕の「分」合せ

〔分〕ボタンを1度押すごとに1分間ずつ進みます。〔分〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

- 開始時刻を〔AM6:30〕にセットする場合

〔AM6:30〕に「分」合せします。

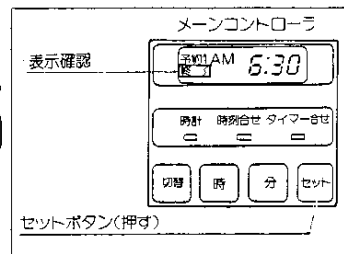


使用手順 ⑫

- ③〔開始時刻〕のタイマーセット

〔セット〕ボタンを押すと、予約1の〔開始時刻〕のタイマーセットは完了です。

(※表示が〔開始〕から〔終了〕に切り替わります。)



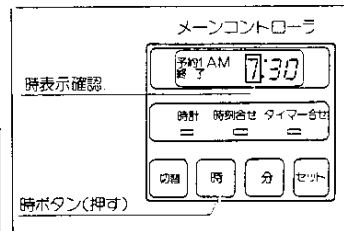
- ③自動保温運転の〔終了時刻〕設定のしかた(予約1)

- ①〔終了時刻〕の「時」合せ

〔時〕ボタンを1度押すごとに1時間ずつ進みます。〔時〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

- 終了時刻を〔AM7:00〕にセットする場合

〔AM7:30〕に「時」合せします。

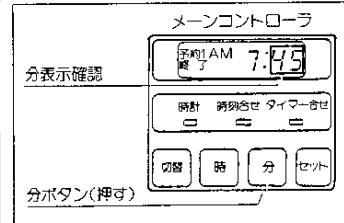


- ②〔終了時刻〕の「分」合せ

〔分〕ボタンを1度押すごとに1分間ずつ進みます。〔分〕ボタンを押し続けると、早送りになります。

- 終了時刻を〔AM7:00〕にセットする場合

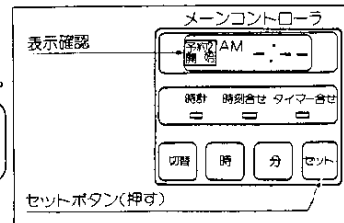
〔AM7:00〕に「分」合せします。



- ③〔終了時刻〕のタイマーセット

〔セット〕ボタンを押すと、予約1の〔終了時刻〕のタイマーセットは完了です。

(※時刻表示盤の表示が、〔予約1〕・〔終了〕から〔予約2〕〔開始〕に切り替わります。)



- ④自動保温運転(予約2)(予約3)のタイマーセットは、(予約1)と同じ手順で操作してください。

使用手順⑬

- ⑤(セット)ボタンを押して、タイマーセットをご確認の上、メインコンローラの〔切替〕ボタンを2度押して、〔時計〕ランプを点灯させてください。
〔もし、〔時計〕ランプへの切替をしないで、〔保温運転〕スイッチを押すと、〔タイマー〕ランプは、点滅しますが、約1分後には自動的に〔時計〕ランプが点灯して、〔タイマー〕ランプも点滅から点灯にかわります。〕
 - ⑥次に、メインコンローラの〔保温運転〕スイッチを2度押してください。
※〔タイマー〕ランプが点灯して、〔自動保温運転〕の準備は、完了です。
 - ⑦タイマーセットした時間帯だけ、〔自動保温運転〕を行います。
- ④自動保温運転の〔開始・終了〕の予約解除のしかた
- 〔開始時刻〕と〔終了時刻〕の設定を同時刻に合せて、タイマーセットすると、その予約は解除できます。
※このとき時刻表示は〔 - : - - 〕となります。
- 〔※〔保温運転〕がうまくいかないときは、21ページの「給湯配管内の空気抜き」の項にしたがって、操作してください。〕

断水時・停電時の処置

断水時の処置

- ①断水に気付いたときは、すみやかに給湯栓を閉じて、メインコンローラの〔運転〕スイッチを〔切〕にして、〔運転〕ランプが消灯したことをご確認ください。
〔※断水時に、給湯栓を開いたままにすると、給湯配管内に空気が入って、〔保温運転〕がうまくいかないことがありますので、十分にご注意ください。〕
- ②再使用するときは、給湯栓を開いていきおいよく水が出てくることを必ず確認してから、8～20ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

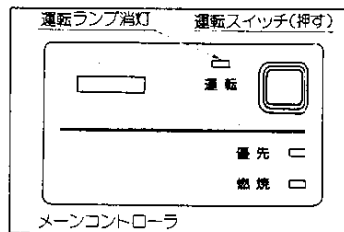
停電時の処置

- ①停電に気付いたときは、すみやかに給湯栓を閉じて、メインコンローラの〔運転〕スイッチを押して「切」の状態にしてください。
- ②再使用したいときは、メインコンローラの〔運転〕スイッチを押して「入」にして、〔運転〕ランプが点灯することを必ず確認してから、8～20ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。
- ③1度(1時間以上)停電すると、(現在時刻合せ)や〔自動保温運転〕のタイマーセット予約などが解除され、セットしていたすべてについて、再設定が必要となりますのでご注意ください。

給湯配管内の空気抜きのしかた

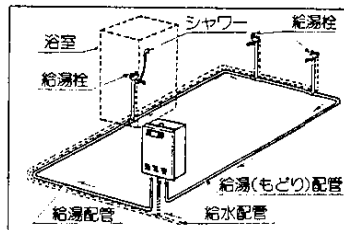
- この湯沸器の水抜き後、または設置・工事後は、次に記載しているような方法で、必ず給湯配管内の空気抜き操作をしてください。

- ①給水元栓を開いて、湯沸器周辺に水漏れがないことをご確認ください。

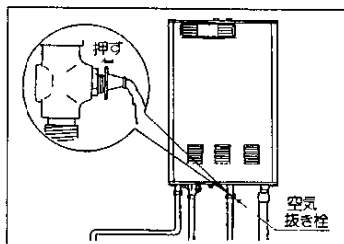


- ②メインコンローラの〔運転〕スイッチを押して「切」にし〔運転〕ランプが消灯していることをご確認ください。

- ③すべての給湯栓を開いて、給湯配管内の空気抜きをしてください。



- ④給湯栓を開いたままで湯沸器本体下の給湯(もどり)配管の継手部の空気抜き栓を押して、出てくる水をバケツや洗面器などで受けて、給湯配管内の空気抜きをしてください。



- ⑤湯沸器本体下の給湯(もどり)配管の継手部空気抜き弁から、約1分間空気抜きを続けると、(給湯配管内の空気抜き)は終了します。

- ⑥すべての給湯栓を閉じてください。これで、(給湯配管内の空気抜き)は完了です。

【ご注意】

- ①この湯沸器の〔保温運転〕中に湯沸器本体の中のポンプに異常音がしたり、〔保温運転〕がうまくいかないときは、再び〔給湯配管内の空気抜き〕の操作をしてください。
- ②もし、〔給湯配管内の空気抜き〕の操作をしても、〔保温運転〕がうまくいかないときは、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

冬期の凍結による破損予防について

■冬期には、寒冷地以外の暖かい地域でも急な寒波のために、給水・給湯配管(湯沸器)内の水が凍結して、給水・給湯配管(湯沸器)が破損することがあります。もし、凍結によって給水・給湯配管(湯沸器)が破損すると、高額な修理費用がかかりますので、次に記載しているような方法で必ず給水・給湯配管および湯沸器の凍結による破損予防をしてください。

湯沸器に内蔵の凍結予防ヒータによる凍結予防法

- この凍結予防法では、給湯配管(湯沸器)内の水の凍結予防には、効果がありますが給水配管内の水の凍結予防には、効果がありませんのでご注意ください。
- ①この湯沸器には、凍結予防を忘れたときや、急な冷え込みのときのために、凍結予防装置(凍結予防ヒータ+ポンプ)が組み込まれています。
- ②外気温度が下がる(約4℃以下になると)、自動的に凍結予防ヒータが作動すると同時にポンプが作動し、給湯配管内の水を循環させて保温します。
- ③この凍結予防装置は、給湯配管内の循環湯温が約20℃になるように、自動的に凍結予防ヒータとポンプが作動・停止を繰り返します。
- ④外気温度が上がる(約14℃以上になると)、自動的に凍結予防ヒータおよびポンプが停止します。
- ⑤その後、再び外気温度が下がる(約4℃以下になると)まで作動しません。

〈ご注意〉

- ①また、外気温度が極端に低く(約-10℃以下)になるようなときは、給湯配管(湯沸器)内の水も凍結する場合がありますのでご注意ください。
- ②給湯配管(湯沸器)内の水を抜くときや、緊急のとき以外は、絶対に電源プラグを抜かないでください。電源プラグを抜いていると、この凍結予防装置は、作動しませんので給湯配管内(湯沸器)の水の凍結予防はできません。

給湯栓から水を流しっ放しにする凍結予防法

- この凍結予防法は、給湯配管(湯沸器)だけでなく、給水配管の凍結予防にも、効果があります。
- ①ガス元栓を閉じてください。
- ②メインコントローラの(運転)スイッチを押して「切」にし、(運転)ランプが消灯していることを確認して、電源コードを抜いてください。
- ③凍結予防に効果の大きい給湯栓、またはすべての給湯栓を開いて、1分間に牛乳ビン1本(200cc)以上の水を流してください。特に、外気温度が低くなるときは、少しだけ多くしてください。

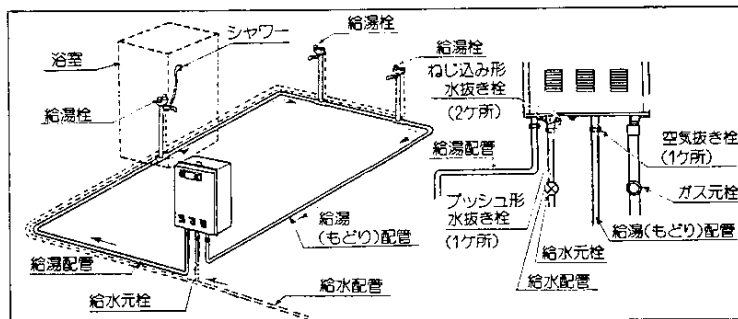
冬期の凍結による破損予防について②

給湯配管(湯沸器)内の水を抜く凍結予防法

- この凍結予防法は、給水配管の凍結予防には効果がありませんが、給湯配管(湯沸器)を凍結による破損から予防するには、最も良い方法です。入居前や長期不在のときの凍結予防法として、おすすめします。

①給湯配管・湯沸器内の水抜き手順

- ①メインコントローラの(運転)スイッチを押して「切」にし、(運転)ランプが消灯していることを確認してから、電源プラグを抜いてください。
- ②ガス元栓を閉じてください。
- ③給水元栓を開いてください。
- ④すべての給湯栓を開いて、給湯配管内の水を抜いてください。
- ⑤湯沸器周辺のねじ込み形水抜き栓(2ヶ所)を外してから、さらにプッシュ形水抜き栓(1ヶ所)と空気抜き栓(1ヶ所)を押して、湯沸器内の水を抜いてください。
- ⑥次にご使用になるときまで、そのままにしておいてください。



②湯沸器内の水抜き後の使用手順

- ①湯沸器周辺のねじ込み形水抜き栓(2ヶ所)を、元通りにしっかりとねじ込んで、プッシュ形水抜き栓(1ヶ所)と空気抜き栓(1ヶ所)を引いて閉じてください。
- ②すべての給湯栓を閉じ、給水元栓を開いて、水抜き栓(3ヶ所)・その他からの水漏れがないことをご確認ください。
- ③水漏れ確認後、21ページの「給湯配管内の空気抜きのしかた」の項にしたがって、操作してください。
- ④(給湯配管内の空気抜き)完了後、8~20ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

冬の凍結による破損予防について ③

凍結時の処置

- 凍結したときには、給水配管・給湯配管（湯沸器）に亀裂が入って、水漏れすることがあります。このときには、高額の修理費用がかかります。
 - ①給水元栓を開いた後、給湯栓を開いて水が出てくることをご確認ください。
 - ②次に、給湯栓を閉じて給水配管・給湯配管（湯沸器）に水漏れのないことをご確認ください。
 - ③水漏れがなければ、8～20ページの「使用手順」の項にしたがって、操作してください。
- ※もし、給水配管・給湯配管（湯沸器）に水漏れを発見されたときは、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

日常の点検・手入れ

- ①この湯沸器を、安全に、快適に、ご使用いただくために、必ず「日常の点検・手入れ」をしてください。
- ②「日常の点検・手入れ」の際には、〔運転〕スイッチを押して「切」にして、湯沸器が十分に冷えてから（約10分後）にしてください。
- ③湯沸器本体の前板などは、絶対に外さないでください。

日常の点検

- ①湯沸器の周辺にダンボール箱などの燃えやすいものは、置いていませんか？
 - ②湯沸器周辺のガス配管部から、ガスが漏れていませんか？
 - ③湯沸器周辺の給水配管や給湯配管から、水が漏れていませんか？
 - ④湯沸器の給気口や排気口（排気トップ）をダンボール箱などで、ふさいでいませんか？
- ※給気口や排気口の位置は、2ページの「各部の名称」の項をごらんください。
- ⑤湯沸器のご使用に支障がなくても、2～3年に一回くらいは、バーナの燃焼状態や各部の作動に異常がないことを、定期的に点検することをおすすめします。
- これは湯沸器を安全に、快適に、長く、ご使用になるための（ひけつ）です。

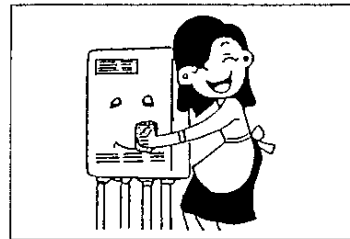
（※定期点検のご依頼は、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。）

日常の点検・手入れ ②

日常の手入れ

①前板・後板・メインコントローラおよびシャワーコントローラのそうじ

- ①湯沸器の前板・後板・メインコントローラおよびシャワーコントローラの汚れは、やわらかい布、またはスポンジに台所用中性洗剤を付けて、そうじしてください。
- ②汚れを取り除いた後で、水拭きおよび空拭きをして、洗剤を落としてください。



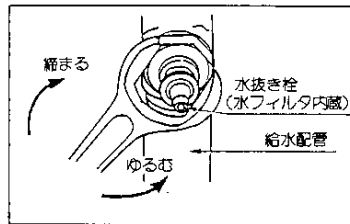
〈ご注意〉

- ①それぞれのコントローラには、直接水がかからないようにご注意ください。
- ②そうじのあとには、洗剤が残らないようにご注意ください。
- ③金属たわし・みがき粉・シンナー・ベンジンなどは、使用しないでください。
※キズが付いたり、色が変ったり、文字が消えたりします。

②水フィルタのそうじ

- この湯沸器の給水接続口（水抜き栓）には、水フィルタが内蔵されています。その水フィルタに給水配管内のごみや砂などがたまりますと、湯沸器内を通る水量が少なくなるために、不着火や途中消火などの原因となりますので、ときどき点検・そうじをしてください。

- ①給水元栓を閉じてください。
- ②給水接続口の水抜き栓を外してください。
- ③水抜き栓の水フィルタ部をそうじしてください。
- ④そうじ後、水抜き栓を給水接続口にしっかりと締め込んでください。
- ⑤次に、21ページの「給湯配管内の空気抜きのしかた」の項にしたがって給湯配管内の空気抜きをしてください。



〈ご注意〉

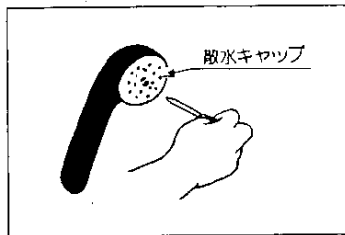
- 給水接続口の水抜き栓を外すときには、水が多量に出てきますのでバケツや洗面器などで、受けてください。

日常の点検・手入れ④

③シャワーヘッドのそうじ

- シャワーをご使用のときに、お湯の量が少な過ぎたり、不着火や途中消火がときどき起こる場合は、シャワーヘッドの散水キャップにごみが詰まっていることがありますので、点検・そうじをしてください。

- ①シャワーヘッドの散水キャップをドライバーなどで外してください。
- ②散水キャップの穴を針や干枚とおしなどでそうじしてください。
- ③シャワーヘッドの散水キャップを元通りに、取り付けてください。



長期間使用しない場合

- この湯沸器を長時間使用しない場合は、必ず次の手順で操作してください。
- ①23ページの「給湯配管（湯沸器）内の水を抜く凍結予防法」の項にしたがって、給湯配管内の水抜き操作をしてください。
- ②ご使用になるまで、そのまましておいてください。
- ③ご使用前には、必ず23ページの「湯沸器内の水抜き後の使用手順」の項にしたがって、操作してください。

故障・異常の見分け方と処置方法

- この湯沸器をご使用中、ふだんと違った状態になったときや、故障・異常が生じたときは、ただちにご使用を中止して、十分な点検をお願いします。

異常報知(警報モニター)のある場合の処置方法

- この湯沸器には、故障・異常が生じたときに、燃焼ランプの点滅と同時に、状況に応じて、いずれかの（湯温調節）ランプが点滅して、その原因をお知らせする異常報知（警報モニター）機能があります。
- ①この湯沸器に故障・異常が生じたときは、（湯温調節）ランプの点滅位置（異常原因）に応じた処置を下表にしたがって、正しく行ってください。ただし、異常報知（警報モニター）でお知らせしない故障・異常が生じたときは、28ページの「異常報知（警報モニター）のない場合の処置方法」の項をごらんください。

湯温調節 ランプ点滅位置	現 象	処置方法（おさま様）
1	バーナの不着火	A→B→C
(2)	バーナの途中消火	A→B→C
(8)	保温運転がうまくいかない	D

(処置方法)

- A：（運転）スイッチを押して「切」にして、すぐに「入」にしてください。
 B：ガス元栓を全開にしてください。
 C：給湯栓を開いてください。
 D：21ページの「給湯配管内の空気抜きのしかた」の項にしたがって、給湯配管内の空気抜き操作をしてください。

※上表に記載のないランプ点滅位置の場合は、湯沸器の故障ですので、ただちにご使用を中止して、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

- ②上表の手順通りに処置をして、（湯温調節）ランプが止れば、正常です。
- ③上表の手順通りに処置をしても、（湯温調節）ランプの点滅が止らないうちやたびたび同じ（湯温調節）ランプが点滅するときは、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

故障・異常の見分け方と処置方法②

異常報知（警報モニター）のない場合の処置方法

- この湯沸器は、ガス・水・電気のいずれかが、止まりますと使用できませんので、特にこの3つについて十分な点検をお願いします。

現象 点検	処置・方法 ページ		
	プラグ点灯しない 運転スイッチを押ししても運転ラン	給湯器が運転しない 「切」にしてからも運転しない	給湯器が運転しない 「切」にしてからも運転しない
●停電している	○	○	●20ページの「停電時の処置」の項にしがたがってください
●電源プラグが抜けている	○	○	●電源プラグをしっかりと、コンセントに差し込んでください。
●漏電安全装置が作動している	○	○	●30ページ「安全装置が作動したときの処置方法」の項にしがたがってください
●ガス元栓が閉じている		○	●運転スイッチを「切」にしてガス元栓を全開にしてください
●給水元栓が閉じている		○	●給水元栓を全開にしてください。
●水フィルタにごみが詰まっている		○	●25ページの「水フィルタのそうじ」の項にしがたがってください。
●断水している		○	●20ページの「断水時の処置」の項にしがたがってください
●給水・給湯配管が凍結している		○	●24ページの「凍結時の処置」の項にしがたがってください

故障・異常の見分け方と処置方法③

安全装置の種類

- この湯沸器には、万一のときのために次のような安全装置が内蔵されています。

①立消え安全装置

- 給湯栓を開いてもバーナに点火しないとき、またはご使用中にバーナが消火したときに、この安全装置が作動して、自動的にガス弁を閉じて、生ガスが出ることを防ぎます。また、このときには、異常報知（警報モニター）として、（湯温調節）ランプ（1）または（2）を点滅させて、お知らせします。

②過熱防止装置

- ご使用中、湯沸器本体の温度が異常に高くなったときに、この安全装置が作動して、自動的にガス弁を閉じて、周辺の壁などが温度上昇することを防ぎます。

③空だき安全装置

- ご使用中、湯沸器の熱交換器の温度が異常に高くなったときに、この安全装置が作動して、自動的にガス弁を閉じて、湯沸器の熱交換器の焼損を防ぎます。

④過圧防止安全装置

- ご使用中、湯沸器の熱交換器の圧力が高くなったときに、この安全装置（逃し弁）が作動して、圧力を逃がし、圧力上昇を防ぎます。

⑤凍結予防装置

- 冬期、外気温度が低く（約4℃以下）になったときに、この安全装置（凍結予防ヒータ+ポンプ）が作動して、給湯配管内の水が凍結することにより、湯沸器が破損することを防ぎます。
※給水配管内の水の凍結予防には、効果がありません。

⑥漏電安全装置

- 万一、湯沸器の電気回路から漏電したときに、この安全装置が作動して、漏電による湯沸器の電気部品が故障することを防ぎます。

安全装置が作動したときの処置方法

- ①(立消え安全装置)が作動したときは、(湯温調節)ランプ〔1〕・〔2〕が点滅しますので、27ページの「異常報知(警報モニター)のある場合の処置方法」の項にしたがって、処置してください。
- ②(過圧防止安全装置)が作動しても湯沸器の故障ではありませんのでご安心ください。これは、湯沸器をご使用後に給湯栓を閉じるたびに、湯沸器の熱交換器内の圧力が高くなりますので、逃し弁から少量の水を逃しています。しかし、床面がぬれて困る場合は、排水工事が必要ですので、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。
※給湯(もどり)配管用逃し弁または膨張タンクを取り付けている場合、通常時には作動しません。
- ③(凍結予防装置)が作動しても、特に処置する必要はありませんのでご安心ください。ただし、電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでいないと、この安全装置は役立ちませんので、ご注意ください。
(※詳しくは、22ページの「湯沸器に内蔵の凍結予防ヒータによる凍結予防法」の項をごらんください。)
- ④(漏電安全装置)が作動したときは、まず電源プラグを抜き差しすると、(漏電安全装置)は復帰します。しかし、そのときも漏電していると、(漏電安全装置)再び作動しますので、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

次のような現象が起きても湯沸器の故障ではありません

	現象	理由
1	給湯栓から、白くにごったようなお湯が出てくる。	水がお湯になるときに、水中に含まれた空気が分離して出てきます。
2	湯沸器の給湯接続口(逃し弁)から水がポタポタ出てくる。	湯沸器内の圧力が高くなると、逃し弁から少量の水を逃します。
3	冬期に、湯沸器の排気口(排気トッパ)から、白い煙が出てくる。	燃焼排ガス中に含まれた水蒸気が外気温度に冷やされて湯気になります。
4	給湯栓を閉じてからも、しばらく送風機が回転している。	湯沸器内の未燃ガスを排出するために、送風機が約7分間回転します。
5	保温運転をしていないときでも、ポンプが回転している。	給湯配管内の水が凍結するのを防ぐために、自動的に作動します。
6	使用していないときでも、バーナが燃焼(送風機が回転)している。	保温運転中、給湯配管内の水が設定湯温になるまで運転を続けます。

アフターサービス

アフターサービスのお申し込み

- ①24～27ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項をごらんになって、もう一度ご確認ください。
- ②ご確認の上、それでも不具合がある場合、あるいはご不明な点がある場合には、ご自分で修理なさらないで、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。
- ③なお、ご連絡をいただくときは、次のことをお知らせください。

- ①(品名)……………ガス瞬間湯沸器
- ②(大阪ガス商品コード)……………湯沸器の正面右下に貼り付けてあります。

(例) **(4)33-695(U)**
大阪ガス株式会社 **03**

- ③(現象)……………できるだけ詳しく
- ④(道順)……………できるだけ詳しく

転居される場合のご注意

- ①ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり、さらに都市ガスにはガスグループの区分がありますのでご注意ください。
- ②転居先によっては、現在使用中のガスと異なる場合がありますので、必ず転居先のガスの種類(ガスグループの区分)をご確認ください。
- ③転居先のガスの種類(ガスグループの区分)が、現在使用中のガスと異なる場合には、そのガスに合せるために、部品の交換や調整が必要となりますので、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

(※この場合、部品の交換や調整に要する費用は、湯沸器の保証期間(無料修理期間)内であっても、有料となりますのでご了承ください。

保証についてのご注意

①この湯沸器には「保証書」が付いています。「保証書」に記載のように、その条件を除いて、この湯沸器の保証期間（無料修理期間）内は、無料にて修理させていただきます。

※詳しくは、「保証書」をごらんください。

②「保証書」を紛失されますと、湯沸器の保証期間（無料修理期間）内の修理であっても、修理費用をいただくことがありますので、この「取扱説明書」と共に大切に保存してください。

③湯沸器が無料修理期間内に故障した場合は、「保証書」を提示してください。

④また、「保証書」に無料修理期間およびお買い求めの販売店の記載のない場合は、無効となりますので、必ずご確認ください。記載がないことを発見されたときは、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

補修用性能部品の最低保有期間についてのご注意

①湯沸器の保証期間（無料修理期間）経過後の修理については、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。湯沸器の修理は、湯沸器の性能が維持できる場合のみ、有料にて行いますのでご了承ください。

②補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後10年となっております。その後の修理は、補修用性能部品がなくて、修理できない場合がありますのでご了承ください。

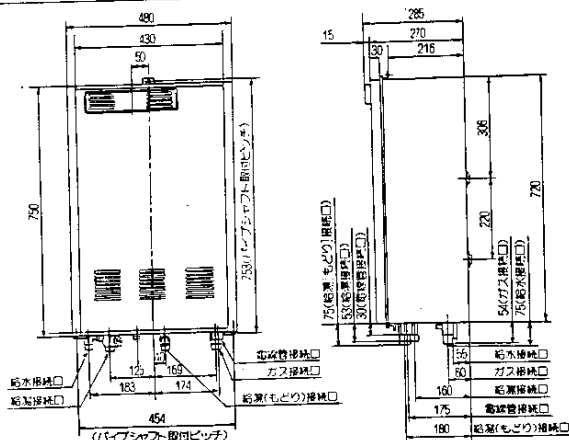
仕様一覧表

項目	種別	《ガス瞬間湯沸器》			
		33-695型・33-696型・33-697型・33-698型・33-699型	都市ガス6C	都市ガス13A	都市ガス6A
最大ガス消費量	(m ³ /h)	9.2	3.7	5.9	3.25(kg/h)
	(Kcal/h)	39,000			
給排気方式		屋外用			
外形寸法(mm)		高さ750×幅480×奥行270			
重量(kg)		35			
接続	ガス	都市ガス用20A(PT3/4)・LPガス用15A(PT1/2)			
	給水	20A(PT3/4)			
	給湯	20A(PT3/4)			
	給湯(もどり)	15A(PT1/2)			
電気		電線管ねじCTC31			
定格電圧(V)		AC100			
定格周波数(Hz)		60			
定格消費電力(W)		75(凍結予防ヒータ+ポンプ作動時240)			
点火方式		連続放電点火式			
使用水圧(kg/cm ²)		0.8~10(最低作動水圧0.15)			
出湯能力(l/分)(水温+25℃)		20(使用水圧2kg/cm ² 時)			
排気温度(℃)		260以下			
安全装置		立消え安全装置 過熱防止装置 空だき安全装置 過圧防止安全装置 凍結予防装置 漏電安全装置 ファン回転検知装置			

外形寸法図

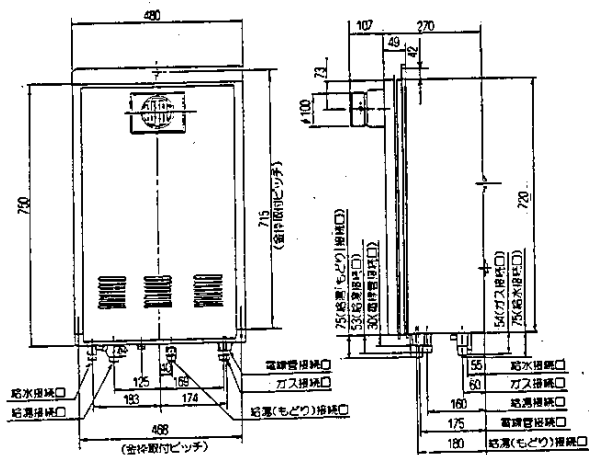
①33-695型(戸建標準タイプ)

②33-696型(集合標準タイプ)



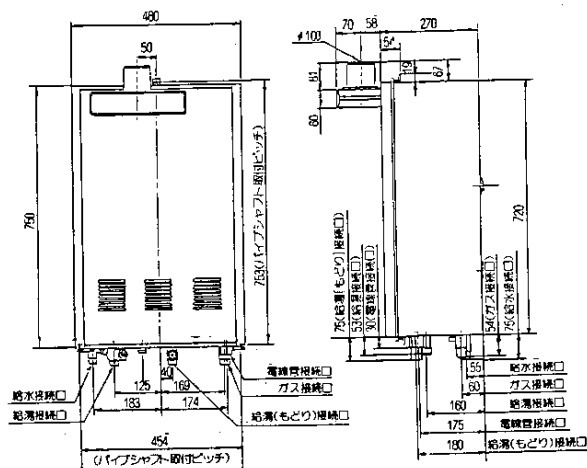
※33-695型と33-696型とは、湯沸器本体の外形寸法図は同じ仕様ですが、同こんされる付属品のみ異なりますのでご注意ください。
 ※それぞれの付属部品については、「設置・工事説明書」をごらんください。

③33-697型(集合扉内設置タイプ)

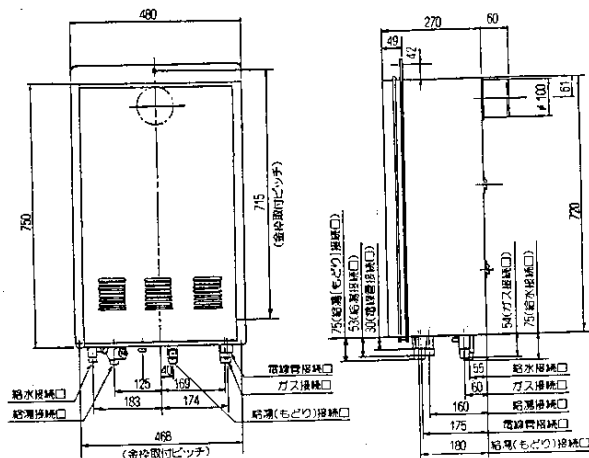


外形寸法図②

④33-698型(集合前方排気延長タイプ)

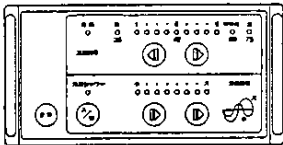
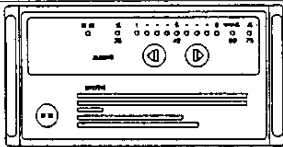
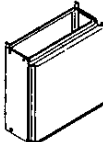



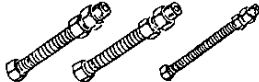


⑤33-699型(集合扉内設置・後方排気延長タイプ)



別売部品のご紹介

●この湯沸器を正しく設置・工事するために、次の別売部品をご利用ください。

別売部品名	コード	同 こん 部 品	外 観
サイクルシャワー コントローラ	38-861型	配線カバー……………1個 配線カバー止め板…1個 リモコンパイプA…1本 リモコンパイプB…1本 リモコンナット…2個 カプセル端子…………2個 Y型端子……………2個 コードクランプ……1個 M4トラスねじ……2本 木ねじ(4.1×20) ……4本 木ねじ(4.1×25) ……4本 配管カバーパッキン1枚	
シャワー コントローラ	38-862型	●サイクルシャワータイプと同じ	
据置台	38-863型	転倒防止金具(上)…1個 転倒防止金具(下)…1個 M4トラスねじ……1本 M4ねじ……………2本 木ねじ(5.1×32) ……2本 カールブラブ……2本 M8六角ホルト……4本 M8六角ナット……4個	
壁掛金具	38-864型	木ねじ(5.1×38) ……6本	
給湯(もどり) 配管用逃し弁	38-865型		
膨張タンク	38-866型		
フレキシブル管 セット	38-867型	3/4フレキシブル管 2本 1/2フレキシブル管 1本	

- この別売部品の設置および取付工事については、それぞれの別売部品の「説明書」と湯沸器の「設置・工事説明書」とを併用して、正しく行ってください。
- 33-695型(戸建標準タイプ)の湯沸器の場合、(壁掛金具セット)と(フレキシブル管セット)および(給湯(もどり)配管用逃し弁)が、湯沸器本体に同梱されていますので、別売部品を準備する必要はありません。

特 長

- 1 給湯栓を開くだけで即出湯**
 - この湯沸器をご使用になりますと、お客様のご使用の時間に合せて(自動保温運転)(1日3回まで)ができ、セットした時間までに給湯配管内の水を、お好みの一定湯温に保ちます。
- 2 巾広い出湯能力範囲(1.5~20号)**
 - この湯沸器をご使用になりますと、夏期(水温が高いとき)、あるいは冬期(水温が低いとき)でも設定通りのお湯が、従来の湯沸器と比較して広範囲の湯量が得られるようになりました。
- 3 マイコン制御で快適適温給湯**
 - この湯沸器は、マイコン制御の採用によって、より安定した湯温・湯量が得られるようになりました。
 - ・第一に、前もって給水温度と湯沸器内を通る水量から、設定湯温に合わせるためのガスの量だけ燃焼させ、さらに、湯沸器から出ていく湯温と設定された湯温との差から燃焼させるガスの量を調節しますので、安定した湯温が得られます。
 - ・第二に、湯沸器の能力を最大限に活用するために、水量を制御する装置が内蔵されています。これは、給湯栓を全開にしても、この装置が働いて、湯沸器の能力(最大20号)に合せて、自動的に湯量を絞りますので、安定した湯温が得られます。
- 4 異常報知(警報モニター)機能付**
 - この湯沸器には、故障・異常が生じたときに、その原因をお知らせする異常報知(警報モニター)機能があります。
- 5 サイクルシャワー機能付シャワーコントローラ**
 - この湯沸器には、別売部品としてシャワーコントローラ(サイクルシャワータイプ)を準備しています。これは、(ぬるいお湯)と(あついお湯)とが交互に出て、心とからだに次のような効果が期待できます。

サイクルシャワーの効果は……

(財)日本健康開発財団監修

- サイクルシャワーは、シャワーの温度の高低でからだを刺激されるため、ココロとカラダに、こんな効果を期待できます。
 - 効果1 皮膚を清潔にし、美容効果があります。
 - 効果2 からだを目覚めさせます。
 - 効果3 精神的に爽快感が得られ、リラックスできます。
- ※高血圧症・心臓病・動脈硬化症の人はご使用になれません。

本製品と快適なくらしのために



年中、快適にシャワー、上り湯が使用できます。
又、洗面化粧台、流し台へも給湯できます。

おねがい

ガスくさいときはお部屋の元栓を閉じ、窓を全開にしてから、OK気に
注意して、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にて通
信ください。

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	☎541	大阪市東区平野町5-1	☎大阪06(202)2221
南支社	☎557	大阪市西成区玉出奥2-9-41	☎大阪06(652)0001
北支社	☎532	大阪市淀川区十三本町3-6-35	☎大阪06(301)1251
堺支社	☎590	堺市住吉橋町2-2-19	☎堺0722(38)1131
北摂支社	☎569	高槻市藤の里町39-6	☎高槻0726(71)0361
阪神支社	☎662	西宮市和上町4-11	☎西宮0798(26)3101
東部支社	☎578	東大阪市稲葉2-3-17	☎河内0720(62)1131
京阪支社	☎573	枚方市西田宮町16-17	☎枚方0720(41)1251
神戸支社	☎650	神戸市中央区相生町5-13-10	☎神戸078(576)5231
京都支社	☎604	京都市中京区福丸池極楽町358	☎京都075(231)8151
奈良支社	☎631	奈良市学園北2-4-1	☎奈良0742(44)1111
和歌山支社	☎640	和歌山市本町1-1-1	☎和歌山0734(31)2481
姫路支社	☎670	姫路市神屋町4-8	☎姫路0792(85)2221
豊瀬支社	☎675	加古川市加古川町薬津29-1	☎加古川0794(21)1801
豊岡支社	☎668	豊岡市三坂町6-57	☎豊岡07982(3)2221
湖南支社	☎625	草津市塩分町字飛船680-1	☎草津0775(62)5311
彦根支社	☎622	彦根市大東町12-11	☎彦根0749(22)3131
(長浜営業所)	☎526	長浜市南呉線町3-4	☎長浜0749(62)7171

その他当社サービスステーション、およびサービスショッ

大阪ガス株式会社